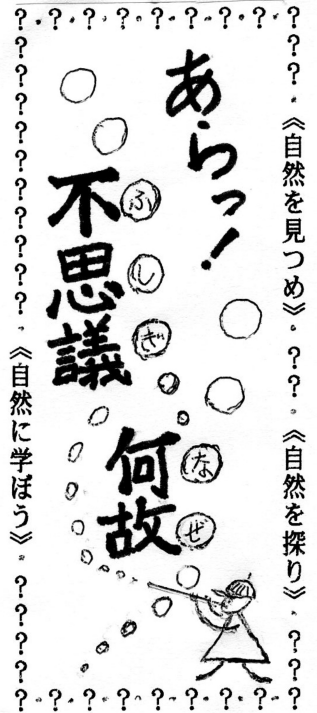


自然談議・科学談議



赤い風招く「春一番」

立春を過ぎると、こんな言葉をよく耳にする。「春の嵐」「春一番」「赤い風」……など。

そう言えば、この時期になると、生暖かい強い南風が時々吹きまくる。これが「春の嵐」だ。そこで今回は、この風に関する言葉と富士見市の地勢との関係を考えてみたい。

春は名のみの風の寒さや

昔の文部省唱歌「早春賦」の一節である。

立春が過ぎてても、2月はまだまだ寒い。昔の南畑も同じで、冷たい北の空っ風が、毎日吹き荒れていた。

「春一番」と「春二番」

だが、2月も半ばを過ぎると、時折、生暖かい

強い南風が吹く。「春の嵐」だ。もう春が来たのかな…と思うと、さにあらず。また寒さがぶり返す。これを数回繰り返して、漸く春になる。

西高東低の冬の気圧配置から、日本海に低気圧を持つ春型の気圧配置に変わる時期で、時々暖かい南風になる。これが「春の嵐」の起因だ。

この「春の嵐」の一番初めに吹く、乾燥した生暖かい強い南風が「春一番」だ。この南風も、その後時折吹く。そして、桜が咲く前に吹く南風を「春二番」というのだ。

今年「春一番」がいつ吹くか楽しみだ。

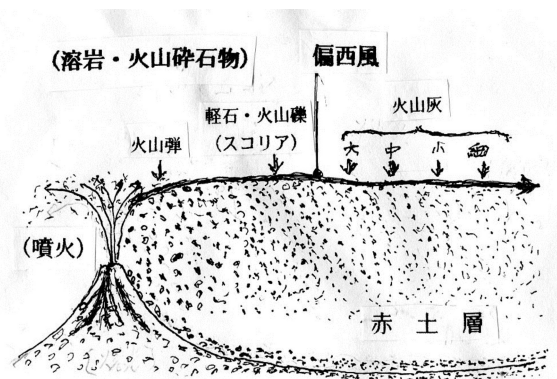
絵・文・題字 渋谷 一夫

「赤い風」どんな風？

だが、春の嵐は厄介者だ。「赤い風」を運んでくる。この嵐がやって来ると、鶴瀬水谷方面の空は赤くなる。赤土が巻き上げられるのだ。

野方の土は、関東ロー△層という赤土だ。地質時代に、富士山や箱根・浅間・赤城・榛名などの火山が噴火し、その火山灰が、偏西風などに乗って運ばれ堆積したものだ。その厚さは、5m・10mもある。

また、堆積した火山灰は、酸化鉄や酸化アルミを多く含み、赤みを帯びている。だから赤土だ。この土が風で巻き上げら



れると、空が赤く見えるわけだ。

この火山灰は、金属を含むとはいえ、偏西風などに乗って、数千mもの上空を、100kmも運ばれてきたのだ。当然、粒子は細かく、重さも軽いはずだ。だから、一度強い旋風にあうとアツという間に巻き上げられる。これが「赤い風」だ。

住宅にも入り込む

野方の友人から、よくこんな苦惱を聞く。「赤

い風」が吹くと、部屋の中がザラザラになって困る…と。密閉度のよい最近の住宅でも入り込むらしい。赤土の粒子は相当細かい微粒子だ。視界も悪くなるし、交通にも目にも悪影響がある。

中国からの「黄砂」も同じ現象だ。中国北部の「黄土」が、強風で巻き上げられ、偏西風に乗って運ばれてくるのだ。

【2016年3月15日掲載】

